

七北田川河口の地形

海水面と干潟内の水面

Fig. 1



写真の奥が海。蒲生干潟側から海に向かって撮影。

津波以降、七北田川河口では地形が大きく変化しています。左写真は七北田川が完全に閉じたときに撮影したもの (Fig. 1) です。

川の流れのように砂浜側から海水がしみ出ています。まるで湧き水のようなようです。その水を採取して比重を調べたところ (Fig. 2)、海水そのものです。

石巻や気仙沼の海岸では地震により地盤沈下が生じ、満ち潮の時に浸水被害が出ていますが、仙台でも同じ現象が生じています。

波の堆積作用で砂浜がどんどん高くなり、8月中旬には七北田川が完全に閉じてしまいました。

その結果、写真のような不思議な現象が見られるようになりました。河口よりも海の方が水面が高いという現象です。

砂浜ができてから間もないため十分に固まっていません。そのため、砂の隙間の空いたところから海水がしみ出してきているわけです。Fig. 3はそれを模式的に示しています。

七北田川の環境変化をとらえるために塩分濃度を測定する必要があります。

Fig. 2

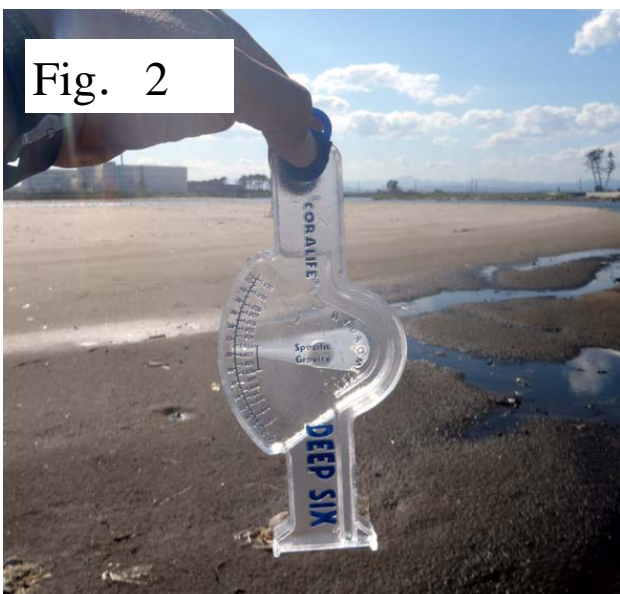
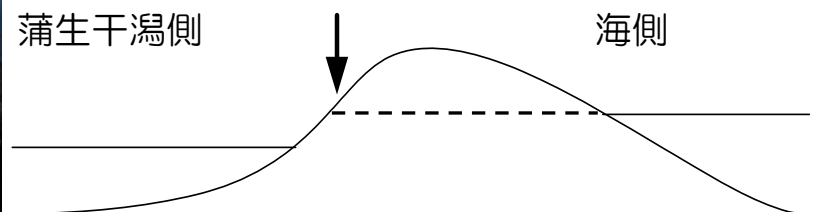


Fig. 3

蒲生干潟側

海側



(西城光洋・攝待尚子・長島康雄)